

科目区分 専門分野

科目名 看護学概論Ⅰ 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

- 科目目標：1. 看護の概念について理解する。
 2. 看護の変遷を学び、歴史的発展について理解する。
 3. 看護の対象について理解する。
 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割、看護活動のあり方を理解する。

開講時期：1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
看護の概念	8	看護の概念、看護の定義・目的を理解する	1. 看護とは 2. 看護の定義 3. 看護の主要概念 1) 人間 2) 健康 3) 環境 4) 看護 4. 看護の対象・目的 5. 看護の変遷	講義
看護の対象	6	看護の対象を理解する	1. 看護の対象としての人間 1) 統合体としての人間 2) 生涯発達し続ける存在としての人間 3) 生活者としての人間	講義
健康の概念	8	健康の概念と健康段階を理解する	1. 健康の定義 2. 健康の段階 3. 日本人の健康と生活	講義
看護の役割と機能	8	看護の役割と機能を学び、看護活動の概要を理解する	1. 看護の役割・機能 1) 直接的看護活動、間接的看護活動 2. 看護活動の場と看護の役割 3. 看護提供システム	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書 現代社 国民衛生の動向 厚生労働統計協会			

科目区分 専門分野

科目名 看護学概論Ⅱ 1単位(15時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

- 科目目標: 1. 看護倫理に関する基本的概念について理解する
 2. 看護における倫理的問題について考えることができる。
 3. 看護実践に必要なとなる主な理論を理解する。

開講時期: 1年次後期

单元名	時間数	单元目標	内 容	授業形態
看護と倫理	6	看護倫理の基礎的知識を理解する	1. 看護職と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯 3. 看護者の倫理綱領 4. 倫理的ジレンマ	講義
看護理論	9	看護理論の意義と変遷を理解する 主な看護理論の概要を理解する	1. 看護理論とは 2. 看護理論を学ぶ意義 3. 看護理論の変遷 4. 看護理論の適用 1. ナイチンゲール 2. ヘンダーソン 3. オレム 4. ロイ 5. ベナー 6. ワトソン 7. オーランド 8. ウィーデンバック 9. トラベルビー 10. ペプロウ	講義
評価	筆記試験 60%、レポート 40%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 看護倫理 見ているものが違うから起こること 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社			

科目区分 専門分野

科目名 看護研究 I 1単位 (15時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

科目目標：看護研究の意義と必要性、方法の基礎を理解する。

開講時期：3年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
看護における研究の役割と概要	3	看護における研究の役割と概要を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における研究の役割 2. 研究とは 3. 研究課題の選択 4. 研究課題と概念枠組みの明確化 5. 研究方法の選定 6. 研究データの分析 7. 結果とその解釈および研究の発表 	講義
研究のプロセス	10	研究の基本となるプロセスを理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討 (検索) 2. 概念枠組みと仮説 3. 研究デザイン 4. 研究計画の立案 5. データの収集 6. データの分析 7. 研究結果の活用 	講義
研究における倫理	2	研究における倫理の重要性と考え方を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究における倫理の考え方 2. 研究対象者の権利と倫理審査体制 	講義
評価	筆記試験			
テキスト	看護における研究 日本看護協会出版会			

科目区分 専門分野

科目名 看護研究Ⅱ 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員）

科目目標：看護実践の意味づけができ、ケーススタディとしてまとめることができる。

開講時期：3年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
ケーススタディの意義	1	ケーススタディの意義と目的を理解する	1. ケーススタディの意義・目的	講義
ケーススタディの進め方	2	ケーススタディの進め方を理解し取り組むことができる	1. ケーススタディの計画 1) テーマの設定 2) 計画書の作成 2. 倫理的配慮 3. 論文の構成要素と内容 4. 論文記載への取り組み方	講義
ケーススタディの実際	4	看護実践を振り返りながら作成を進めることができる	1. ケーススタディ作成 (アクティブラーニングを活用)	講義
研究成果の伝達と講評	2	研究成果を発表することの意義と方法を理解する	1. 研究発表の方法と意義 2. 抄録の作成 3. 講評とは	講義
ケーススタディの発表	6	ケーススタディを発表することができる	1. 発表 2. 講評	講義
評価	レポート			
テキスト	看護における研究 日本看護協会出版会 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社			

科目区分 専門分野

科目名 看護過程 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：看護を实践するための思考プロセスと基本的な方法を理解する。

開講時期：1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
看護過程の概要	2	看護過程を用いることの意義を理解する	1. 看護過程とは 2. 看護過程の必要性	講義
看護過程の基盤となる考え方	4	問題解決過程やクリティカルシンキングなどの看護過程の基盤となる考え方を理解する	1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断	講義
看護過程の構成要素	4	看護過程の各構成要素について、基本的な考え方を理解する	1. アセスメント 2. 看護問題の明確化 3. 看護計画 4. 実施 5. 評価	講義
看護過程の展開	20	事例の看護過程を展開できる	1. 事例を用いた看護過程の展開	講義
評価	筆記試験 50%、レポート 50%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院			

科目区分 専門分野**科目名 臨床判断 1単位（15時間）**

※実務経験のある教員による授業（非常勤講師）

科目目標：看護の対象の状態に気づき、またその状態を推論し必要な援助を導き出すための知識を習得する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
臨床判断 プロセス	4	対象に応じた 援助を導き出 すための考え 方を理解する	1. 観察するとは 2. 対象者をとらえるとは 3. クリティカルシンキング 4. 臨床推論とは 5. 臨床判断とは	講義
臨床判断 トレーニング	11	既習の知識を 用い対象に応 じた援助を考 えることがで きる	1. 事例を用いた臨床判断トレ ーニング (アクティブラーニングを活用)	講義 演習
評価	筆記試験 80%、実技試験 20%			
テキスト	講義時に講師が提示する			

科目区分 専門分野

科目名 共通基本技術 I 1 単位 (30 時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標 : 看護活動に共通する基本的看護技術を習得する。

開講時期 : 1 年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
看護技術の 基本原則	2	看護技術の基 本と安全・安 楽の概念を理 解する	1. 看護技術の特徴と範囲 2. 看護技術を適切に実践するた めの要素 3. 看護技術の基本原則 4. 安全・安楽の概念と阻害要因	講義
安全確保の 技術	4	看護における 安全の重要性 と安全を守る ための原則と 方法を理解す る	1. 医療における安全の重要性 2. 安全の意義 3. 安全における看護の役割 4. 医療事故発生の要因 5. 安全確保の基礎知識 6. 安全を守る技術	講義 演習
コミュニケー ション	8	看護における コミュニケーションの意義 と基本的な方 法を理解する	1. 意義と目的 2. コミュニケーションにおける 自己理解と他者理解 3. 人間関係を保つコミュニケー ション 4. 効果的なコミュニケーション 技術	講義 演習
感染防止の 技術	16	基本的な感染 防止の技術を 理解し実施で きる	1. 感染予防の意義と原則 2. 院内感染の防止 3. 標準予防策 4. 感染経路別予防策 5. 洗浄・消毒・滅菌 6. 医療施設における感染管理 7. 医療廃棄物の取り扱い 8. 無菌操作	講義 演習
評価	筆記試験 100%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 共通基本技術Ⅱ 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

科目目標: 看護における観察の重要性を理解し、対象の健康状態を把握しアセスメントする技術を習得する。

開講時期: 1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
ヘルスアセスメント	2	観察の意義と重要性を理解する	1. 観察の意義と目的 2. ヘルスアセスメントの意義と目的	講義
フィジカルアセスメント	4	対象の健康状態を把握しアセスメントする方法を理解し実施できる	1. 概要 2. 活用方法 3. 観察技術 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 聴診 5) 打診	講義 演習
バイタルサインの観察と身体計測	14	バイタルサインの観察とアセスメントの方法を理解し実施できる	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 5) 意識 3. 身体計測	講義 演習
系統的フィジカルアセスメント	10	フィジカルアセスメントの基本的な方法を理解し実施できる	1. 頭頸部 2. 呼吸器系 3. 循環器系 4. 腹部 5. 乳房・腋窩 6. 直腸・肛門・生殖器 7. 脳・神経系 8. 筋・骨格系	講義 演習
評価	筆記試験 80%、実技試験(バイタルサイン測定) 20%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 共通基本技術Ⅲ 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員）

科目目標：看護における学習支援と記録・報告の方法を理解する。

開講時期：1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
学習支援	10	看護に必要な学習支援の基礎知識及び方法を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における学習支援 2. 学習に関わる諸理論 3. 健康に生きることを支える学習支援 4. 健康状態の変化に伴う学習支援 5. 学習支援の実際 	講義 グループワーク
記録・報告	5	看護における記録・報告の意義と方法を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 4) 看護サマリー 5) 記録方式 4. 情報開示と個人情報の保護 5. 報告の意義、方法 	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 生活を整える技術Ⅰ 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

科目目標: 対象の生活(環境、活動・休息)を整えるための知識と技術を習得する。

開講時期: 1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
環境調整技術	12	環境が人間に及ぼす影響を理解する 環境調整の援助方法を理解し実施できる	1. 人間と環境 2. 療養環境 3. 環境調整の意義 4. 療養環境のアセスメント 5. 療養環境の調整と整備 6. ベッド周囲の環境整備 7. ベッドメイキング 8. リネン交換	講義 演習
活動の援助技術	12	人間にとっての活動の意義と不活動状態による心身への影響を理解する 活動の援助方法を理解し実施できる	1. 活動と運動の意義 2. 体位の安定性を構成する要素 3. 良肢位の保持 4. 体位の種類と特徴 5. ボディメカニクスの活用 6. 活動と不活動状態が及ぼす影響 7. 移動の援助 8. 療養生活におけるレクリエーション	講義
休息と睡眠の援助	2	睡眠を促す援助を理解する	1. 休息と睡眠の意義 2. 睡眠の生理学的特徴 3. アセスメントと援助方法 4. 睡眠障害への援助	講義
苦痛の緩和・安楽確保	4	安楽を確保するための援助を理解し実施できる	1. 安楽な体位の保持 2. 褥法 3. リラクゼーション法	講義 演習
評価	筆記試験 80%、実技試験(ベッドメイキング) 20%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 生活を整える技術Ⅱ 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 対象の生活 (清潔・衣生活) を整えるための知識と技術を習得する。

開講時期: 1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
清潔の援助	26	人間にとっての清潔の意義を理解する 清潔の援助方法を理解し実施できる	1. 身体の清潔の意義 2. 清潔の効果と身体に及ぼす影響 3. 清潔の援助に必要な基礎知識 4. 清潔の援助	講義 演習
衣生活の援助	4	人間にとっての衣生活の意義を理解する 衣生活の援助方法を理解し実施できる	1. 衣生活の意義 2. 熱産生と熱放散 3. 被服気候 4. 衣生活に関するニーズのアセスメント 5. 病衣の選び方 6. 病衣・寝衣の交換	講義 演習
評価	筆記試験 80%、実技試験 (全身清拭) 20%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 生活を整える技術Ⅲ 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 対象の生活 (食事、排泄) を整えるための知識と技術を習得する。

開講時期: 1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
食事の援助と 食事療法	16	人間にとって の食事・栄養 の意義を理解 する 対象に合わせ た食事の援助 方法を理解し 実施できる 食事療法を受 ける患者の看 護を理解する	1. 食事と栄養の意義 2. 食事と栄養のメカニズム 3. 食事と栄養に影響する因子 4. 栄養状態および摂食能力、 食欲や食に対する認識の アセスメント 5. 医療施設で提供される食事の 種類と形態 6. 食事摂取の介助 *食事の環境調整、誤嚥予防 7. 摂食・嚥下訓練 8. 非経口的栄養摂取の援助 9. 食事療法を受ける患者の看護	講義 演習
排泄の援助	14	人間にとって の排泄の意義 を理解する 排泄の援助方 法を理解し実 施できる	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム 3. 排泄に影響する因子 4. 排泄援助を提供する看護師の 役割 5. 排泄のアセスメント 6. 自然な排泄を促す援助 7. 導尿	講義 演習
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 診療に伴う援助技術 I 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 診療に伴う援助を実施するための知識と技術を習得する。

開講時期: 1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
薬物療法と 与薬	28	薬物療法を受ける対象の特徴と基本的看護を理解する 与薬の意義と看護師の役割を理解する 安全・確実に与薬するための方法を理解し実施できる	1. 薬物療法を受ける患者の看護 2. 薬物の基本的性質 3. 与薬における看護師の役割 4. 薬剤の種類 (輸液・血液製剤含む) と取り扱い方法 5. 与薬方法と効果の観察 6. 援助の実際 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射	講義 演習
輸血	2	輸血療法の基礎知識と看護を理解する	1. 輸血の目的 2. 輸血の種類と取り扱い方法 3. 輸血用血液製剤の管理方法 4. 副作用 (有害事象) の観察	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 診療に伴う援助技術Ⅱ 1単位（30時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員）

科目目標：1. 呼吸・循環・体温を整えるための知識と技術を習得する。
2. 診療に伴う援助を実施するための知識と技術を習得する。

開講時期：1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
呼吸・循環・ 体温を整える 技術	8	呼吸・循環・体 温を整えるた めの援助方法 を理解し実施 できる	1. 呼吸・循環・体温調整の アセスメント 2. 呼吸管理 3. 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法 4. 酸素吸入の適応と方法 5. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の 適応と方法 6. 排痰法の適応と方法 7. 吸入の適応と方法 8. 人工呼吸療法の適応と方法 9. 血圧・血流を保持する姿勢 10. 体温調整のための方法	講義 演習
創傷管理技術	12	創傷管理に必 要な技術を理 解し実施でき る	1. 創傷管理の基礎知識 2. 創傷の観察 3. 創部の環境調整 4. 創傷処置 5. 褥瘡の予防と管理 6. 包帯法	講義 演習
診察・検査・ 処置における 援助	10	診察・検査に おける看護師 の役割および 援助方法を理 解する	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 3. 診察・検査時の看護師の役割 4. 検体検査 5. 生体検査	講義
評価	筆記試験 80%、実技試験（無菌操作）20%			
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域と暮らし 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する

開講時期: 1年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
人々の暮らし	4	暮らしについて理解する	1. 子供を生き育てる 2. 学ぶ 3. 働く 4. 病を治す 5. 老いとともに生きる 6. 最期を迎える	講義
		支え合い生きることについて理解する	1. 家族 2. 仲間 3. 近隣の人々 4. 学校や職場 5. 支え合い	
地域の理解	10	健康的な暮らしに必要な条件と管理について理解する	1. 食と健康 2. 衣服と健康 3. 住まいと健康 4. 家庭経営・家庭管理	講義
	8	地域の特徴を理解する	1. 青森県内の地域の生活環境 2. 地域における生活課題 3. 暮らしやすさと個人の価値観	講義 GW
	2	地域の生活環境が健康に与える影響について理解する	1. 文化的環境 2. 社会的環境 3. 自然環境	講義
暮らしと防災	6	地域における防災を理解する	1. 日常生活における安全管理 2. 地域における防災	講義 GW
評価	筆記試験			
テキスト	地域・在宅看護論 I 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域・在宅看護概論 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：地域・在宅看護の基盤となる概念をふまえ、看護の役割を理解する。

開講時期：1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
地域・在宅看護の必要性と対象	8	地域・在宅看護が必要とされる背景と根拠を理解する	1. 地域・在宅看護とは 2. 社会的背景の変遷 1) 人口構成の変化 2) 国民の価値観 3) 療養の場 4) 社会保障費 (医療費・介護費) 3. 地域包括ケアシステム	講義
		地域・在宅看護の対象について理解する	1. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域に暮らすすべての人々 2) 健康状態 3) 発達段階 4) 家族	講義
地域・在宅看護の目的・役割と機能	22	地域・在宅看護の目的、役割と機能について理解する	1. 地域・在宅看護の目的 2. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割 2) 自助/互助/共助/公助の意義と役割 3) 家族を支える看護 4) 多職種連携、協働の意義と方法 3. 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護 1) ハイリスクアプローチ 生活習慣病予防、介護予防など 2) 健康行動理論の活用 3) セルフケア理論の活用 4. 療養の場の移行に伴う看護 1) 入退院に関する患者・家族の意思決定支援 2) 退院支援・退院調整	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
			3) 地域連携パス 4) 外来・地域連携部門と看看連携 5. 地域で暮らし続けることを支援する ためのマネジメント 1) 自己決定支援 2) ケアマネジメントの必要性 3) インフォーマルネットワークの維持 6. 地域・在宅における倫理的課題	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅰ 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（非常勤講師）

科目目標：地域・在宅看護に関連する法制度と施策について理解する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
地域・在宅 看護実践の場	3	看護が提供される多様な場を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院（外来、入院）・診療所 2. 居宅（自宅、施設） 3. 療養通所介護事業所 4. 訪問看護事業所 5. 看護小規模多機能型居宅介護 6. 通所サービス 7. 地域包括支援センター 8. 介護施設、老人保健施設 など 	講義
地域・在宅看護 に関連する 法制度と施策	12	地域・在宅看護に活用される法制度と施策を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険とその活用 2. 介護保険とその活用 3. 訪問看護に関する法と制度 4. 権利保障に関する法や施策 5. 各保険・障害者等に関する法と施策 	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅱ 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：1. 地域で生活する療養者とその家族の看護について理解する。
2. 暮らしの中で行われる治療と看護を理解する。

開講時期：2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
暮らしの中で行われる治療と看護	6	暮らしの中で行われる基本技術を理解する	1. 基本技術 1) コミュニケーション技術 2) 療養者、家族への相談・指導技術 3) 訪問時のマナー 【演習 2H：ロールプレイ】	講義 演習
	24	在宅療養を支える生活ケア・医療的ケアについて理解する	1. がん終末期 2. 慢性心不全 3. ALS 4. 認知症 5. 在宅酸素療法、在宅人工呼吸器の管理【2H】 6. 経管栄養【4H】	講義 演習
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅲ 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員・非常勤講師)

科目目標：1. 地域・在宅療養者の状態に応じた看護と社会資源活用の基本を理解する。
2. 在宅療養者への介入時期に応じた安心安全な療養生活支援について理解する。

開講時期：2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
地域・在宅看護における安全と健康危機管理	14	安心・安全な療養生活に必要な看護を理解する	1. 安心した生活の保障 2. 生活の中での安全管理 3. 在宅での感染対策 4. 服薬管理 5. 外来通院の療養者に対するケア (化学療法・放射線治療・検査 等)	講義
介入時期と看護の継続性		介入時期に応じた看護とその継続性について理解する	1. 治療の場からの移行期 2. 在宅療養の安定期 3. 在宅リハビリテーション期 4. 急性増悪期 5. 終末期	
療養者の状態に応じた看護	16	療養者・家族への状態に応じた看護と社会資源の活用の実践について理解する	1. 難病の療養者への看護 1) 状態のアセスメントと環境整備 2) 療養者・家族のセルフマネジメント力を高める支援 3) 異常の早期発見と対応 4) 社会資源の活用・調整 2. 認知症の療養者への看護 3. 統合失調症の療養者への看護 4. 小児の療養者への看護 5. リハビリテーション期における看護 6. がん終末期にある療養者への看護 1) 疾病の特徴と療養の経過 2) 症状マネジメント 3) 終末期緩和ケアの実践 4) 家族へのグリーフケア	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 地域・在宅看護演習 1単位 (15時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：事例展開を通して地域・在宅看護の特徴を理解する。

開講時期：2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
地域・在宅看護の事例展開	15	<p>地域・在宅看護における看護過程の特徴を理解する</p> <p>地域・在宅看護に必要な情報収集とアセスメントを理解する</p> <p>地域・在宅看護計画の立案・評価の視点を理解する</p>	<p>1. 療養者の多様な生活と価値観</p> <p>2. 生活環境や家族への視点</p> <p>3. 時間的な広がりへの着目</p> <p>4. 生活を支える制度・支援体制の理解</p> <p>1. 事例：脳梗塞後遺症の療養者</p> <p>2. 情報源と情報収集の方法</p> <p>3. 情報の整理とアセスメント</p> <p>1) 療養者のアセスメント</p> <p>2) 家族・介護者のアセスメント</p> <p>3) 住環境のアセスメント</p> <p>4) 社会資源のアセスメント</p> <p>5) 経済力のアセスメント</p> <p>4. 関連図の作成</p> <p>1) ジェノグラム</p> <p>2) エコマップ</p> <p>3) ICF</p> <p>5. 看護課題の明確化</p> <p>1. 看護計画の立案</p> <p>1) 療養者・家族を対象とした成果</p> <p>2) 看護計画</p> <p>3) 計画立案時の留意点</p> <p>2. 評価・修正</p> <p>1) 長期的視点での評価の必要性</p> <p>2) 療養者、家族の視点の評価</p> <p>3) 計画の修正</p>	講義 GW
評価	筆記試験 70%、レポート 30%			
テキスト	<p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院</p>			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護学概論 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

科目目標: 成人期の特徴と健康保持や疾病予防および健康レベルに応じた看護の役割と機能について理解する。

開講時期: 1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
成人期の特徴と成人教育	10	成人期にある人の特徴と成人教育の原理について理解する	1. 成人のライフサイクルと発達の特徴 1) 身体的特徴 2) 精神・社会的特徴 2. 社会状況の変化と成人の生活 3. 成人に対する教育的かかわり	講義
健康生活を育む看護	10	成人に特有な健康問題の特徴とその予防について理解する	1. 人口の動向 (平均寿命、受療率、死因別死亡率) 2. ヘルスプロモーション 3. 地域保健 4. 成人各期の健康問題	講義
健康レベルに応じた看護の役割	10	理論を活用し、健康レベル別の対象及びその家族に必要な看護について理解する	1. 健康レベル別の対象の特徴と看護の役割 1) 生命の危機状況にある対象の特徴と看護の役割(急性期) 危機理論 (フィンク・アギュララ) 2) 回復期にある対象の特徴と看護の役割 コーンの障害による心理過程 3) 慢性期にある対象の特徴と看護の役割 病みの軌跡理論 4) 終末期にある対象の特徴と看護の役割 キューブラ・ロスの死の受容過程	講義
評価	筆記試験80%、レポート20%			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護方法論 I (健康危機状況における看護) 1 単位 (30 時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員・非常勤講師)

科目目標: 生命危機状況にある対象及び侵襲的治療を受ける対象の看護について理解する。

開講時期: 1 年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
生命の危機状態にある対象の看護	1 2	生命の危機状態にあり治療を必要としている対象の看護の特徴について理解する	1. 生命の危機状態にある対象の看護 1) クリティカルケア看護の対象 2) 生命維持と回復への援助 3) 二次障害予防 4) 家族支援 5) 一次救命処置 (BLS) 2. 急性疾患により生命が脅かされている対象の看護 1) 生命の危機状態にある対象の特徴 2) 生命の危機状態にある対象のアセスメントと対応 3) 治療・処置時の看護 4) 循環不全のある対象の看護 (急性心筋梗塞)	講義
侵襲的治療 (手術療法) を受ける対象の看護	1 8	手術療法を受ける対象の健康危機状況と看護の特徴について理解する	1. 手術療法を受ける対象の特徴 1) 手術侵襲と生体反応 2) 麻酔による身体への影響 2. 周術期の看護 1) 手術前の看護 2) 手術中の看護 3) 手術後の看護 3. 援助の実際 1) 術前訓練、前処置 2) 早期離床への援助	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
		<p>開腹術を受ける対象の看護について理解する</p> <p>開胸術を受ける対象の看護について理解する</p>	<p>1. 胃切除術を受ける対象の看護</p> <p>2. 人工肛門造設術を受ける対象の看護</p> <p>3. 食道切除術を受ける対象の看護</p> <p>4. 膵切除術を受ける対象の看護</p> <p>5. 肝切除術を受ける対象の看護</p> <p>1. 肺葉切除を受ける対象の看護</p> <p>1) 胸腔ドレーン管理</p> <p>2) 呼吸機能回復への援助</p> <p>3) 術後合併症予防</p>	<p>講義</p> <p>講義</p>
評価	筆記試験			
テキスト	<p>系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器 医学書院</p>			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護方法論Ⅱ（セルフマネジメントに向けての看護）1単位（30時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員・非常勤講師）

科目目標：慢性的な経過をたどる健康障害のある対象のセルフマネジメントに向けての看護について理解する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
慢性疾患とセルフマネジメント	4	慢性疾患の特徴を踏まえセルフマネジメント支援について理解する	1. 慢性疾患とセルフマネジメント 1) セルフマネジメントとは 2) 慢性疾患の特徴とセルフマネジメント 2. セルフマネジメント支援 1) 疾病認識と自己管理状況のアセスメント 2) セルフケア行動形成への影響要因 3) セルフケア行動継続への援助内発的動機付け（自己効力感）エンパワメントアプローチ 自己モニタリング	講義
セルフマネジメントを支援する看護	6	呼吸機能障害を持ちながら生活する対象のセルフマネジメントについて理解する	1. 呼吸機能障害のある対象へのセルフマネジメント 1) 呼吸機能障害のアセスメント（慢性閉塞性肺疾患） 2) 急性増悪の回避と症状マネジメント 3) 社会生活継続のためのマネジメント	講義
	10	糖代謝障害を持ちながら生活する対象のセルフマネジメントについて理解する	1. 糖代謝障害を持つ対象へのセルフマネジメント 1) 糖代謝障害のアセスメント（2型糖尿病） 2) 増悪因子の回避と症状マネジメント 3) セルフマネジメントの実際	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
	10	身体防御機能の障害を持ちながら生活する対象のセルフマネジメントについて理解する	<p>4) 社会生活継続のためのマネジメント</p> <p>1. 身体防御機能の障害を持つ対象へのセルフマネジメント</p> <p>1) 身体防御機能の障害のアセスメント(自己免疫疾患:SLE)(血液悪性疾患:白血病)</p> <p>2) 増悪因子の回避と症状マネジメント</p> <p>3) セルフマネジメントの実際</p> <p>4) 社会生活継続のためのマネジメント</p>	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護方法論Ⅲ（セルフケア再獲得に向けての看護）1単位（30時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員・非常勤講師）

科目目標：障害をもちながら生活する対象へのセルフケアの再獲得を支援する看護について理解する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
障害の適応と社会復帰への看護	4	障害の適応および社会復帰に向けての看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフケアの概念 2. 機能障害のアセスメント 3. 障害受容への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害受容への影響要因 2) 価値の転換 3) アドボカシー 4. 社会参加を促す要素と阻害要因 5. チームアプローチと社会資源の活用 	講義
セルフケアの再獲得を支援する看護	10	脳・神経機能障害のある対象のセルフケア再獲得への看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経機能障害のある対象のセルフケア支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 再出血、合併症のアセスメントと予防(クモ膜下出血) 2) 機能障害による日常生活動作のアセスメント 3) 二次障害予防 4) 高次脳機能障害への援助 5) 障害の克服への看護 	講義
	10	心機能障害のある対象のセルフケア再獲得への看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心機能障害のある対象のセルフケア支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心機能障害のアセスメント 2) 日常生活への影響とセルフケア 2. ペースメーカーを装着した対象のセルフケア支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能障害のアセスメント 2) 機能障害による日常生活動作のアセスメント 	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
	2	セクシュアリティに関わるセルフケア再獲得への看護を理解する	3) 合併症・二次障害予防 1. 乳房切除術を受けた対象のセルフケア支援 1) ボディイメージの変容への援助 2) リンパ浮腫の予防と対応 3) セクシュアリティに関わる支援	講義
	4	職業生活に関わるセルフケア再獲得への看護を理解する	1. 脊髄損傷回復期にある対象の看護 1) 機能障害による日常生活動作のアセスメント 2) 合併症・二次障害予防に向けた日常生活援助 3) 職業生活に関わる支援 4) セクシュアリティに関わる支援 5) 退院に向けての調整	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護方法論Ⅳ(緩和ケアを必要とする人の看護) 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(非常勤講師)

科目目標:緩和ケアを必要とする対象と家族、その人らしい生活を全うするための看護について理解する。

開講時期:2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
がん看護	10	がん患者とその家族への看護を理解する	1. がんの動向とがん対策 2. がん患者・家族の理解 3. がん治療を受ける患者の看護 1) 手術療法 2) 化学療法 3) 放射線療法 4) 集学的治療 4. がん患者の社会参加への支援	講義
緩和ケア	10	緩和ケアを必要とする対象とその家族を理解する	1. 緩和ケアの現状と課題 1) 緩和ケアの対象 2) 提供の場とチームアプローチ 3) エンドオブライフ 2. 緩和ケアにおける倫理的課題 1) 生命倫理と看護者の倫理綱領 2) 死生観 3) 意思決定支援 4) 安楽死・尊厳死・鎮静 3. 全人的苦痛に対する支援 1) 身体的ケア 2) 精神的ケア 3) 社会的ケア 4) スピリチュアルケア 4. 家族ケア 1) 緩和ケアにおける家族看護 2) その状況に必要とされるケア 3) 悲嘆のプロセス・予期悲嘆	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
終末期看護	10	終末期にある対象とその家族への看護を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象とその家族の特徴 2. 臨死期の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 死亡前後のケア 2) 死の三徴 3. 死亡後のケア <ol style="list-style-type: none"> 1) エンゼルケア 2) 死者への敬意と葬送儀礼 4. グリーフケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺族ケア 2) 医療者のケア 	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護方法論Ⅴ（セーフティネット分野の看護） 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（非常勤講師）

科目目標：国立病院機構が担うセーフティネット分野における看護を理解する。

開講時期：2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
重症心身障害者（児）の看護	6	成長・発達に障害を伴う重症心身障害者（児）の看護を理解する	1. 重症心身障害者（児）の看護 1) 対象の特徴とアセスメント 2) 重症心身障害の治療、看護の意義 3) 日常生活の援助 4) 関係部門・機関との連携 5) 対象の家族との関りと支援 6) 地域との連携と支援	講義
神経・筋難病の看護	4	筋萎縮性側索硬化症の看護について理解する パーキンソン病の看護を理解する	1. 筋萎縮性側索硬化症の看護 1) 難病について 2) 疾患に罹患した対象の理解 3) 対象のアセスメント 4) 症状に対する援助 5) 日常生活の援助 6) 人工呼吸器装着の看護 7) 社会資源の活用への支援 8) 在宅への退院支援 2. パーキンソン病 1) 対象のアセスメント 2) 治療に対する看護	講義
筋ジストロフィー症の看護	3	筋ジストロフィー症の看護を理解する	1. 筋ジストロフィー症患者の看護 1) 罹患した対象の理解 2) 対象のアセスメント 3) 症状に対する援助 4) 日常生活の援助 5) 社会資源の活用への支援 6) 人工呼吸器装着時の看護 7) 在宅療養に向けた支援	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
結核感染症の看護	2	結核感染症の看護を理解する	1. 結核感染症の看護 1) 結核感染症の感染経路 2) 結核感染症の感染予防対策 3) 対象のアセスメント 4) 長期の療養を必要とする対象への看護 5) 治療継続のための患者教育と生活指導 6) 社会復帰に対する支援	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 成人看護演習 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標:成人期の対象の特徴を踏まえた看護過程の展開について理解する。

開講時期: 2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
周術期にある対象の看護	30	健康障害のある成人患者の事例を通して看護過程を展開する	1. 周術期にある対象の看護過程の実際 1) 対象の把握 2) 情報整理・アセスメント 3) 全体像の把握および看護問題の明確化 4) 看護計画の立案	講義 演習
評価	筆記試験 30%、レポート 70%			
テキスト	系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 老年看護学概論 1単位(15時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

- 科目目標: 1. 老年期にある対象の特徴を理解する。
 2. 高齢者を取り巻く社会と倫理問題について理解する。
 3. 老年看護の意義と役割を理解する。

開講時期: 1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
高齢者の理解	5	老年期にある人の特徴を理解する	1. 老年期と発達・変化 2. その人らしい生活の継続 3. 加齢に伴う心理・社会的変化 4. 高齢者体験	講義
高齢者のヘルスアセスメント	4	高齢者のヘルスアセスメントの視点について理解する	1. 高齢者の機能と評価 2. 身体に加齢変化とアセスメント	講義
高齢者の生活	4	高齢社会における現状と高齢者保健医療福祉施策、課題について理解する	1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢社会における権利擁護	講義
老年看護の基本	2	老年看護の基本的な考え方を理解する	1. 老年看護の変遷 2. 老年看護の特徴	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 老年看護方法論 I 1 単位 (30 時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：1. 加齢変化に伴う日常生活への影響を理解し、高齢者の日常生活の援助方法を理解する。

2. 高齢者に特有の症候・疾患・障害とその看護について理解する。

開講時期：2 年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
高齢者の生活を支える看護	8	高齢者の生活を支える看護について理解する	1. 高齢者の生活機能を整える看護 1) コミュニケーション能力 2) 歩行、移動、姿勢保持 3) 食事・食生活 4) 排泄 5) 清潔、身だしなみ、衣生活 6) 活動と休息 7) セクシュアリティ 8) 社会参加	講義 GW 演習
高齢者に特有の症候・疾患・障害と看護	18	加齢による病態と要因、アセスメント、看護について理解する	1. 健康逸脱からの回復を促す看護 1) 廃用症候群 2) 脱水症 3) 摂食・嚥下障害 (ST2 時間) 4) 低栄養 5) 尿失禁 6) 睡眠障害 7) 視覚、聴覚障害 8) 皮膚の障害 9) 認知症 10) せん妄 11) うつ病 12) パーキンソン症候群 13) 骨粗鬆症、骨折 14) 感染症	講義
高齢者の家族の看護	4	高齢者の家族の看護を理解する	1. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 老年看護方法論Ⅱ 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（専任教員）

科目目標：多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
健康の維持と介護予防	2	健康の維持と介護予防について理解する	1. 健康の維持と介護予防 1) 健康の維持・増進の状況 2) 受療状況 3) 介護予防の促進と評価 4) フレイル	講義
急性期・回復期の看護 (医療施設)	5	急性期・回復期にある高齢者の看護について理解する	1. 急性期の高齢者への看護 1) 手術 2) 手術以外の急性期 2. 回復期の高齢者への看護	講義
慢性期の看護 (介護保険施設やグループホーム)	4	慢性期にある高齢者の看護について理解する	1. 慢性期の高齢者への看護 2. 外来を受診する高齢者の看護 3. 検査を受ける高齢者の看護 4. 薬物治療を受ける高齢者の看護	講義
終末期（エンドオブライフケア）の看護 (在宅)	4	終末期にある高齢者の看護について理解する	1. エンドオブライフケアとは 1) 身体兆候のアセスメントと援助 2) 苦痛の緩和と安楽の援助 3) 精神的苦痛や混乱に対する援助 4) 臨死期の評価と援助 5) 家族の参加と家族への援助 6) グリーフケア	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 老年看護演習 1単位 (15時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 事例を通して、健康障害のある高齢者の看護過程を展開できる。

開講時期: 2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
高齢者の看護過程	15	健康障害のある高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開ができる	1. 事例を用いた高齢者の看護過程の展開 1) 入院による影響と高齢者の特徴を踏まえた情報収集・アセスメント (1) 疾患の経過と治療 (2) 加齢による変化 (3) 生活習慣、価値観・健康に対する認識 (4) 家族の背景、サポート状況 2) 全体像の把握 (1) 原因・誘因を踏まえた現在の状況・状態 (2) 生活背景、価値・信念 (3) 看護上の問題の成り行き 3) アセスメントに基づいた看護計画 (1) 生活機能・強みを考慮した目標設定 (2) 加齢変化、生活習慣を考慮した援助 (3) 残存機能を活用した援助 (4) 家族への援助 (5) 安全・安楽の考慮 (6) 高齢者の心理・自尊心に配慮した援助 4) 援助の実施・評価	講義 演習
評価	レポート 85%、筆記試験 15%			
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 小児看護学概論 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員)

科目目標:子どもと家族を取り巻く環境について学び、小児看護の特徴、小児各期の成長・発達を理解する。

開講時期:1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
小児看護の特徴	4	小児看護の特徴について理解する	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の理念・目的・目標・役割 3. 小児看護の場と特徴 4. 小児医療・看護の変遷と課題 5. 小児看護における倫理	講義
小児保健対策	6	子どもと家族を取り巻く社会を理解する	1. 小児看護における諸統計 2. 小児をめぐる法律と施策 3. 社会資源の活用	講義
小児各期における健康増進のための子どもと家族の看護	16	小児期における成長・発達の特徴と看護について理解する	1. 小児の特徴 2. 小児を取り巻く環境 3. 小児の発育評価 4. 小児各期の成長・発達に応じた生活への支援 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期	講義
特別な支援を必要とする子どもと家族の看護	4	特別な状況にある子どもと家族の看護を考えることができる	1. 虐待を受けている子どもと家族への看護 2. 災害を受けた子どもと家族への看護	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 小児看護方法論Ⅰ 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(非常勤講師)

科目目標:小児期特有の疾患について学習し、健康状態に応じた子どもと家族に必要な看護を理解する。

開講時期:2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
小児の代表的疾患	12	小児の代表的疾患について、病態・治療を理解する	1. 感染症(細菌感染症、ウイルス感染症) 2. 循環器疾患(ファロー四徴症、心疾患、川崎病) 3. 染色体異常(ダウン症候群、クラインフェルター症候群、ターナー症候群) 4. 消化器疾患(肥厚性幽門狭窄、腸重積、ヒルシュスプルング、乳幼児下痢症) 5. 神経疾患(先天異常、痙攣性疾患、脳性麻痺) 6. 事故・外傷	講義
小児にみられる主な症状と看護	4	小児に起こりやすい症状と看護について理解する	1. 小児にみられる症状の特徴 2. 小児にみられる主な症状と看護(発熱、脱水、下痢・嘔吐、呼吸困難、啼泣、不機嫌、痙攣)	講義
健康障害の経過の特徴と看護	6	健康障害の経過に応じた看護を理解する	1. 急性期の特徴と看護 2. 慢性期の特徴と看護 3. 終末期の特徴と看護	講義
子どもの状況に特徴づけられる看護	8	子どもの状況に応じた看護を理解する	1. 入院中の子どもと家族への看護 2. 外来での子どもと家族への看護 3. 代謝機能に障害をもつ子どもと家族の看護(1型糖尿病) 4. 感染症をもつ子どもの看護 5. 循環器に障害をもつ子どもと家族の看護(ファロー四徴症、川崎病)	講義

			6. 消化器に障害をもつ子どもと家族の看護(肥厚性幽門狭窄症、鎖肛)	
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 小児看護方法論Ⅱ 1単位(15時間)

※実務経験のある教員による授業(専任教員・非常勤講師)

科目目標:小児特有の援助技術および治療・処置に対する看護を理解する。

開講時期:2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
小児看護に共通する技術	5	小児看護に必要な技術を理解する	1. コミュニケーション 2. 観察 3. バイタルサイン 4. 身体計測 5. 抱き方、寝かせ方 6. プレパレーション	講義 演習
検査・治療・処置を受ける子どもと家族への援助	10	検査・治療・処置に対する援助を理解する	1. 子どもにとっての検査・治療・処置 2. 検査・治療・処置に対する援助 1)採血 2)採尿 3)骨髄穿刺、腰椎穿刺 4)酸素療法 5)吸引、吸入 6)与薬 7)輸液療法、注射 3. 援助の実際 (プレパレーション含む)	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院			

科目区分 専門分野**科目名 小児看護演習 1単位 (15時間)**

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標：小児特有の健康障害によって生じる問題を導き出し、発達段階を踏まえて患児と家族に対する看護を考える。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
小児の特徴を踏まえた事例展開	15	事例展開を通して、患児と家族への看護を理解する	1. 小児看護過程の特徴 2. 事例展開 1) 患児と家族のアセスメント 2) 全体像の把握 3) 看護計画立案 4) プレパレーション実施	講義 演習
評価	レポート 80%、筆記試験 20%			
テキスト	系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 母性看護学概論 1単位(15時間)

※実務経験のある教員による授業(非常勤講師)

科目目標: 1. 母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向について理解する。
2. 女性サイクル各期の特徴と健康問題及び看護について理解する。

開講時期: 1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
母性看護の概念	15	母性看護の主な概念を理解する	1. 母性とは 1) 母性・父性の概念 2) 母性関係と家族発達 3) セクシャリティ(人間の性) 4) リプロダクティブヘルス 5) ヘルスプロモーション 2. 母性看護の歴史の変遷 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健統計の動向 3) 母性看護に関する組織と法律 4) 母子保健に関連する施策 5) リプロダクティブヘルスケア	講義
母性看護と倫理		母性看護における倫理について考えを深める	1. 母性看護とは 1) 母性看護の理念 2) 母性看護の課題 2. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定	講義
ライフサイクル各期における看護		ライフサイクル各期の男女の特徴と看護を理解する	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
			2. ライフサイクル各期に及ぶ問題と 看護 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) HIV に感染した女性に対する 看護 4) 人工妊娠中絶喫煙女性の健康と 看護 5) 不妊症（女性不妊症・男性不妊 症）、不育症治療と看護	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 母性看護方法論 I 1 単位 (30 時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

科目目標：1. 妊娠期にある対象を理解し、各経過における看護・保健指導について理解する。
2. 分娩期にある対象を理解し、各経過における看護について理解する。

開講時期：2 年次前期

单元名	時間数	单元目標	内 容	授業形態
妊婦の看護	2 6	<p>正常な妊娠経過を理解する</p> <p>妊婦の心理、日常生活およびセルフケアと安全について理解する</p> <p>出産・育児の準備について理解する</p> <p>親役割の準備について理解する</p> <p>妊婦の看護技術について理解する</p>	<p>1. 妊娠期の正常な経過</p> <p>1) 妊娠期の定義と成立</p> <p>2) 妊娠の経過と胎児の発育</p> <p>3) 妊婦健康検査の目的</p> <p>4) 妊婦の診察と看護</p> <p>2. 妊婦の心理的特徴</p> <p>1) 妊娠への適応と心理的变化</p> <p>2) 妊娠各期の心理的特徴</p> <p>3. 妊娠の日常生活とセルフケア</p> <p>1) 妊婦の健康管理と保健相談</p> <p>2) 日常生活の過ごし方とセルフケア</p> <p>3) 妊産婦の食事指導</p> <p>4) マイナートラブルと保健指導</p> <p>4. 出産・育児の準備と保健指導</p> <p>1) 出産・育児</p> <p>2) 親になるための準備教育</p> <p>3) 妊娠中の乳房の手当方法</p> <p>5. 親役割の準備</p> <p>6. 妊婦の看護</p> <p>1) 妊婦の診察法</p> <p>(1) 腹囲・子宮底の測定</p> <p>(2) レオポルド触診法</p>	講義
産婦の看護		<p>分娩の経過と胎児の健康状態について理解する</p>	<p>7. 分娩の経過と胎児の健康状態</p> <p>1) 分娩と生理と経過</p> <p>(1) 分娩の定義</p> <p>(2) 分娩の3要素と分娩転機</p> <p>(3) 分娩経過</p> <p>2) 産婦の健康診査</p>	講義

单元名	時間数	单元目標	内 容	授業形態
妊娠期、分娩期の看護技術	4	<p>分娩の進行状態に合わせた看護と安全について理解する</p> <p>演習を通して妊娠期、分娩期の必要な看護技術を理解する</p>	<p>8. 産婦と家族の心理 1) 産婦の心理的特徴</p> <p>9. 分娩の進行状況に合わせた看護 1) 入院時の看護 2) 分娩第1期～4期の看護 (1) 各期の観察とアセスメント (2) 分娩を促進するための看護</p> <p>【技術演習】</p> <p>1. 妊婦の診察法 1) 腹囲・子宮底の測定 2) レオポルド触診法 3) 胎児心拍数モニタリング</p> <p>2. 分娩を促進するための看護 1) 産痛緩和法 2) 分娩時の補助動作・呼吸法</p>	演習
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 母性看護方法論Ⅱ 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(非常勤講師・専任教員)

科目目標: 1. 正常な産褥の経過と看護について理解する。

2. 新生児期の経過と看護について理解する。

3. 産褥期の事例を通し、母性領域での特徴的な看護過程の展開について理解する。

開講時期: 2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
褥婦の看護	12	産褥期の経過について理解する 正常な産褥経過を促すための看護を理解する	1. 産褥経過 1) 産褥の定義 2) 産褥の経過 (1) 退行性変化と進行性変化 2. 褥婦と家族の心理 1) 母親への適応過程 2) マタニティーブルーズ 3) 家族の心理的变化 3. 褥婦の日常生活とセルフケア 1) 褥婦のアセスメント 2) 産褥経過のアセスメント 3) セルフケア能力のアセスメント 4. 褥婦と家族の看護 1) 身体機能回復への看護 2) 進行性変化への看護 3) 児との関係確立への看護 4) 育児技術にかかわる看護 5) 家族関係再構築への看護 6) 社会的支援 (ソーシャルサポート)	講義
新生児の看護		新生児の経過を理解する	1. 新生児の生理とアセスメント 1) 呼吸、循環、体温、消化器、肝臓、腎臓 2) 全身観察 (フィジカルアセスメント) 2. 新生児の看護 1) 出生直後の新生児の看護 2) 身体の清潔	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
産褥期・新生児の看護技術	4	褥婦の看護と看護技術の実際を理解する	3) 新生児の栄養 4) 新生児に行われる検査と与薬 3. 退院後の生活指導 1) 保育環境 2) 育児技術指導 4. 母子関係確立への看護 【技術演習】 1. 乳房の観察と乳房ケア 2. 子宮復古の観察 3. 授乳時の抱き方	演習
産褥期の看護過程	14	新生児の看護技術の実際を理解する 正常な経過をたどっている褥婦の看護過程を理解する	1. バイタルサインの測定 2. 全身の観察(頭部の観察を含む) 3. 沐浴 【看護過程】 1. 看護過程 1) ウェルネスの概念 2) 褥婦のアセスメント 3) 関連図 4) 援助計画 5) 評価	講義
評価	筆記試験 50%、レポート 50%			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 ハイリスクの看護 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

科目目標：1. 妊産褥婦・新生児のハイリスク状態と主な治療について理解する。
2. 妊産褥婦・新生児のハイリスク時の看護について理解する。

開講時期：2年次前期

单元名	時間数	单元目標	内 容	授業形態
ハイリスクの妊婦	10	妊産褥婦のハイリスク状態と主な治療について理解する	1. ハイリスク妊婦 1) 定義、頻度、スクリーニング 2. 妊娠期の異常と治療 1) 感染症 2) 不育症・流産・早産 3) 常位胎盤早期剥離 4) 前置胎盤 5) 妊娠高血圧症候群 6) 糖代謝異常妊娠 7) 妊娠貧血 8) 妊娠悪阻 9) 血液型不適合妊娠 10) 多胎妊娠	講義
ハイリスクの産婦	4		3. 分娩期の異常と治療 1) 前期破水 2) 微弱陣痛・過強陣痛 3) 胎児機能不全 4) 分娩誘発 5) 鉗子・吸引分娩 6) 帝王切開 7) 分娩時異常出血	講義
ハイリスクの褥婦	2		4. 産褥期の異常と治療 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産後うつ 5) 帝王切開術後(肺塞栓含む)	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
ハイリスクの 新生児	4	ハイリスク状態と主な治療について理解する	1. 新生児期の異常 1) 新生児仮死 2) 分部外傷 3) 早産時・低出生体重児 4) 新生児一過性多呼吸 5) 呼吸窮迫症候群 6) 胎便吸引症候群 7) 高ビリルビン血症 8) 新生児ビタミンK欠乏症	講義
妊産褥婦・新生児のハイリスク時の看護 危機的状況にある妊産褥婦と新生児	10	ハイリスク状態にある妊産褥婦・新生児の看護を理解する 予期しない危機状況にある妊産褥婦・新生児の看護を理解する	1. ハイリスク状態にある妊産褥婦・新生児の看護 2. 先天異常、障害のある児の看護 3. 先天異常、障害のある児を出産した褥婦・家族の看護 4. 児を亡くした親・家族の看護	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 精神看護学概論 1単位 (15時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

- 科目目標：1. こころの健康と危機について学び、精神保健の意義、精神保健活動について理解する。
2. 精神に障害をもつ患者と家族の状況を理解し、看護師の機能・役割の理解と援助方法の基礎を学ぶ。
3. 精神保健に関わる制度の変遷と、変遷に伴う社会や精神に障害をもつ人への影響について理解する。

開講時期：1年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
こころの健康と精神保健活動の意義	8	こころの健康と危機について学び、精神保健の意義、精神保健活動について理解する	1. 心の健康と精神保健の枠組み 1) 精神の健康とストレスマネジメント 2) 精神保健における3つの予防概念 (一次予防・二次予防・三次予防) 3) リカバリーの概念 4) こころのバリアフリー宣言 5) 精神看護における看護師の役割 2. 心の発達と健康 1) 精神と情緒の発達 2) 自我の機能・防衛機制・精神力 動・転移 感情 3) 心の発達に関する諸理論 3. 家族と心の健康 環境と心の健康 (学校や職場、地域) 4. 精神の危機状況と精神保健 1) 危機の概念 2) ストレスとコーピング 3) 適応と不適応 4) セルフマネジメント 5. 現代社会と精神の健康 1) 現代社会の特徴 2) 現代社会の主な問題 DV、ひきこもり、ハラスメント 3) 現代社会の主な問題 自殺・不登校、いじめ、自傷行為、虐待、アルコール問題、薬物問題、犯罪・犯行、ギャンブル依存、IT依存など	講義

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
精神に障害をもつ人の理解と看護	5	精神に障害のある患者と家族の状況を理解し、看護師の機能・役割の理解と援助方法の基礎を学ぶ	1. 精神障害の理解 1) 精神障害の原因と発症 2) 精神障害の診断と分類 3) 障害のとらえ方 2. 精神障害を持つ患者と家族の理解と援助の基本 1) 精神に障害をもつ人が抱える障害とは 2) 精神機能および生活能力の障害 3) エンパワメント 4) 回復（リカバリー）を支える力 5) ストレングスとは 6) レジリエンス 3. 精神科におけるチーム医療 4. リエゾン精神看護 5. 災害と心の健康 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健に関する初期対応 3) 災害時の精神障害者への治療継続	講義
精神に障害をもつ人を守る法律と制度	2	精神に障害のある患者と家族の状況を理解し、看護師の機能・役割の理解と援助方法の基礎を学ぶ	1. 精神看護における基本的人権と倫理的問題 2. 精神保健医療福祉の変遷と法や施策 1) 精神保健医療福祉の変遷 2) 精神保健福祉法 3) 障害者総合支援法 4) 障害者差別解消法 5) 医療形態と患者の処遇・患者の権利擁護 6) 心神喪失者等医療観察法	講義
評価	筆記試験			
テキスト	専門分野	精神看護の基礎	精神看護学 1	
	専門分野	精神看護の展開	精神看護学 2	

科目区分 専門分野

科目名 精神看護方法論 I 1 単位 (15 時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

科目目標：精神に障害を及ぼす疾患・症状と治療について理解する。

開講時期：2 年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
精神症状と診断	2	精神症状について理解する	1. 精神障害者が抱える症状 1) 精神症状 2) 中枢神経障害 2. 精神障害の診断・検査	講義
精神疾患と治療	13	精神疾患と治療について理解する	3. 主な精神疾患と診療 1) 治療法 (薬物療法・電気けいれん療法・リハビリテーション療法・精神療法) 2) 統合失調症 3) 双極性障害 4) 脳器質性精神病 (認知症・せん妄) 5) 症状精神病 6) アルコール依存症 7) 薬物依存 8) てんかん 9) 神経症・心因精神病 解離症、不安症、強迫症、心的外傷後ストレス障害 (PTSD)、知的発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動症 10) 児童・思春期の精神障害	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野	精神看護学 [1]	精神看護の基礎	医学書院
	系統看護学講座 専門分野	精神看護学 [2]	精神看護の展開	医学書院

科目区分 専門分野

科目名 精神看護方法論Ⅱ 1単位(30時間)

※実務経験のある教員による授業(非常勤講師)

- 科目目標：1. 精神に障害をもつ人とその家族の特徴を理解し、援助方法を理解する。
 2. 精神科リハビリテーションと地域精神保健について学び、再発予防について理解する。
 3. 患者－看護師関係の成立・発展のための技術を理解する。

開講時期：2年次前期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
精神に障害をもつ人とその家族への援助	20	精神に障害をもつ人とその家族の特徴を理解し、援助方法を理解する	1. 精神障害をもつ人の看護 1) 精神障害者の理解 2) 入院形態 3) 看護師に求められるもの 4) 患者との関わりかた 2. 精神障害者の抱える症状の理解 1) 不安状態 2) 抑うつ状態 3) 幻覚・妄想状態 4) 思考内容の思考の障害 5) 強迫症状 6) 意識の変容 7) 記憶の障害と知的機能の障害 8) 離脱症状 9) 精神運動興奮 10) 自閉症状 11) 昏迷状態 12) 心気状態 13) 拒絶症状 3. てんかん・躁うつ病患者の看護 4. 統合失調症患者の看護 5. アルコール・薬物依存症患者の看護 6. 摂食障害者・パーソナリティ障害者の看護 7. 診察・検査・治療に伴う看護 1) 診察時に見られる患者の反応と援助 2) 検査に伴う看護(放射線、脳波、	講義

			心理検査など) 3) 電気けいれん療法を受ける患者の看護 4) 薬物療法に伴う看護 8. 児童・思春期精神科看護 1) 児童の発達段階の理解 2) 家族や社会環境要因の理解 3) 児童・思春期の精神障害(発達障害、神経症性障害、精神病性障害)と看護 9. 身体拘束時の看護(演習含む) 10. オレムアンダーウッド理論 11. 生きる力に着目した援助 ・ストレングスマッピングシートの活用など	
精神科リハビリテーションと再発予防	4	精神科リハビリテーションと地域精神保健について学び、再発予防について理解する	1. 精神医療福祉と法制度 1) 患者の意思や人権を尊重する立場からの理解 2) 精神科病院への入院(任意入院、医療保護入院、措置入院、緊急措置入院、応急入院) 3) 精神科リハビリテーション 4) 地域におけるリハビリテーション 5) リエゾン精神看護とは	講義
援助関係の構築	6	患者－看護師関係の成立・発展のための技術を理解する	1. 患者－看護師関係の成立・発展の技術 1) ペプロウ、トラベルビーの理論 2) 転移感情 3) 精神に障害のある人のコミュニケーションの特徴 2. 対人関係発展のためのコミュニケーション技術	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	精神看護学 [1] 精神看護学 [2]	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院

科目区分 専門分野

科目名 精神看護演習 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師・専任教員)

- 科目目標：1. カウンセリングの基礎を理解し、実践に活かすための傾聴と自己理解を深める。
 2. プロセスレコードの理解と実施により自己の傾向を振り返ることができる。
 3. 基本訓練モデルを実施することでSSTについて理解できる。
 4. 精神疾患患者の事例を用いて看護過程の展開ができる。

開講時期：2年次後期

単元名	時間数	単元目標	内容	授業形態
カウンセリングとは	10	カウンセリングの基礎を理解し、実践に活かすための傾聴と自己理解を深める	1. カウンセリングの基礎 2. 自己理解と他者理解 1) エゴグラム 2) 交流パターンの分析 3. カウンセリングのための心と体づくり	講義
プロセスレコードとは	2	プロセスレコードの理解と実施により自己の傾向を振り返ることができる	1. プロセスレコードの目的と実際	講義 演習
精神科領域におけるSSTの理解	4	基本訓練モデルを実施することでSSTについて理解する	1. 精神科領域におけるSSTの理解 2. 基本訓練モデルの体験 3. 注意焦点付け訓練・問題解決技能訓練の体験	講義 演習
精神疾患患者の事例による看護過程の展開	14	精神疾患患者の事例を用いて看護過程の展開ができる	1. 統合失調症患者の事例展開	講義
評価	筆記試験 50%、レポート 50%			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 [2] 精神看護の展開 医学書院 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研 参考文献：全人的視点にもとづく精神看護過程 医歯薬出版株式会社			

科目区分 専門分野

科目名 看護管理 1単位 (15時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師)

科目目標: 1. 看護マネジメントの基礎を理解する。

2. 組織の一員としての看護師の役割・行動を理解する。

開講時期: 3年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
看護管理の基礎的知識	6	看護管理の基礎的知識を理解する	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理の定義 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護職に求められるマネジメント 2. マネジメントに必要な知識と技術	講義
看護管理の実際	9	看護管理の実際を理解する	3. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントプロセス 2) 看護におけるマネジメント 3) 日常業務のマネジメント 4. 看護職のキャリアマネジメント 1) 看護職のキャリア形成 2) 看護専門職としての成長 5. 看護サービスのマネジメント 1) 組織として看護サービスをマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービス提供体制 4) 人材育成 5) 施設・設備環境、物品のマネジメント 6) 情報のマネジメント	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント医療安全メヂカルフレンド社			

科目区分 専門分野

科目名 災害看護・国際看護 1単位（15時間）

※実務経験のある教員による授業（非常勤講師）

科目目標：1. 災害時における看護の役割とその実際を理解する。

2. 国際社会における看護の役割を理解する。

開講時期：3年次後期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
災害看護の基礎	9	災害医療・災害看護の基礎的知識を理解する	1. 災害看護とは 2. 災害医療の基礎的知識 3. 災害看護の基礎的知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4. 災害サイクルに応じた看護 5. 災害と心のケア 6. 災害への備えとそのシステム 7. トリアージ	講義 演習
国際看護	6	国際看護の基礎的知識を理解する	1. 国際看護学とは 2. 世界の健康問題の現状 3. 国際看護学の定義 4. 国際看護学の対象 5. 国際看護学に関連する基礎的知識 6. 国際協力のしくみ	講義
評価	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			

科目区分 専門分野

科目名 医療安全 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (非常勤講師・専任教員)

科目目標：1. 医療安全の基本と考え方を理解する。

2. 看護を安全に提供するために必要な安全対策 (事故防止策) の組織的・個人的な取り組みを理解する。

開講時期：3年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
医療安全の基本	4 6	医療安全の考え方を理解する	1. 医療安全を学ぶ意義 2. 医療安全の基本 3. 組織的な安全管理体制 1) 個人としての取り組み (1) KYT 2) チームの中の医療安全 3) 組織としての取り組み	講義 講義
医療現場でおこりやすいインシデント	10	医療の場での事例から具体的なインシデントや要因を理解する	1. 事例から学ぶ医療安全 1) 薬剤 2) 輸血 3) 治療処置 4) 医療機器・医療材料の使用・管理 5) ドレーン・チューブ類の使用・管理 6) 検査 7) 療養上の世話 8) 誤認	講義
事例分析	10	インシデントや事故の事例分析から対策を考えることができる	1. 事例分析 1) メディカルセイファア	講義 演習
評価	筆記試験			
テキスト	看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			

科目区分 専門分野

科目名 臨床看護実践 1単位 (30時間)

※実務経験のある教員による授業 (専任教員)

科目目標: 1. 複数患者や多重課題への援助を通して総合的な状況判断や対応の基本を習得する。

2. 臨床で遭遇する倫理的問題を解決するためのプロセスを理解する。

開講時期: 3年次前期

単元名	時間数	単元目標	内 容	授業形態
複数患者の看護	6	ケアの優先順位の考え方を理解し、援助計画を立案できる	1. 複数患者の援助計画立案 (患者個々の計画立案) 2. 複数患者のケアの優先順位を考慮した行動計画立案	講義
多重課題の対応	8	多重課題対応の原則を理解する	1. 多重課題時の対応 1) 割り込み状況 2) 突発的な事態 3) 時間の切迫 4) 割り込み業務への対応と優先順位の考え方 2. 多重課題発生時の対応の実際	講義 演習
チームでの看護	4	看護チームにおけるそれぞれの役割と連携・協力について理解する	1. 看護提供体制 2. チームメンバーの役割 3. チームリーダーの役割 4. チームの情報共有、報告・連絡・相談	講義
臨床実践に近い看護技術	6	臨床看護技術を習得できる	1. 危険薬剤 (インスリン) 2. 注射技術 (皮下注射) 3. 輸液の滴下調整	講義 演習
臨床での倫理的問題	6	倫理的問題を考えるとともに解決のための方法を理解する	1. 臨床で遭遇する倫理的問題 2. 事例を用いた倫理的問題解決方法	講義
評価	筆記試験			
テキスト	新体系 看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント医療安全 メヂカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術			